

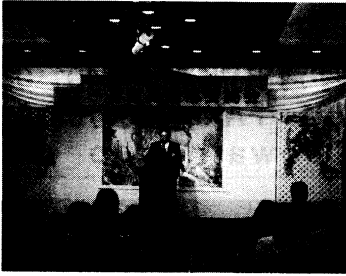
昨年度の総会報告

平成十一年度の総会は、八月八日(日)午後五時より、一宮平安殿で行われました。七回生・十四回生を中心として、総勢百八十七名の方々に集まっていたくださり、また、ご多忙にもかかわらず、歴代の校長先生方をはじめ、懐かしい担任・副担任の先生方など、多くの先生方にご来賓として出席していただきました。

総会では、平成十年度の事業報告・会計報告、役員改選、平成十一年度の事業計画・予算案の審議と、例年どおり議事が滞りなく進められました。特に会計面では、多くの方に郵送料カンパをしていただき、重ねてお礼申し上げます。

懇親会の各テーブルでは、所狭しと師弟入り混じって歓談に酔いしれ、旧交を温めることができました。名残も尽きないまま記念写真でお開きとなりました。

同窓会総会というと、参加を尻込みするという人が多いようです。しかし、このように学年単位の同窓会も定着し、年々好評を得ています。今年度は、ご案内にもあるように、十五回生の学年同窓会を計画しています。お誘い合わせのうえ、是非ご参加下さいませようお願いします。



十四回生 学年同窓会



十四回生の学年同窓会が昨年度の総会と並行して行われ、同級生七十四名に加え、て棚橋先生をはじめ、恩師の先生にもご出席いただき、実に懐かしいひとときを過ごすことができました。二次会にも四十名以上出席していただき、名残は尽きませんでした。

参加者のうち女性が七割で男性が少ないのが残念だったこと、女性でもまだお子さんが小さくて、今回参加できなかった人もあり、近いうちにもう一回という声もあがりました。そのときはみなさんよろしくお願いします。(事務局 市田)

東京支部会報告

十四回生 岡村喜久夫

今回は、支部会のお誘いありがとうございました。久々に懐かしい時間が過ぎました。もう少し、世代の近い人が多ければ、もう少しとなしやっとな。自分等の下が二十六ぐらいまで離れると聞いていたので、浮くのじゃないかと少し心配していた。特に、今風の厚底ガンクログコギヤルもどきや鼻ピア

ス男が現れた日にやあーぶちぎれ、説教モードに入るぞと幹事には、忠告しておいたのだけど、そんな輩は、どこにもおらず。昔のキャントリボーイの雰囲気もなく、シテイボーイで充分通用してたわ。俺等は田舎もんやっとなとつくづく実感した。話せば、気取ったところはないし、かわいい後輩達だった。今後は、もつとOB連中の参加を増やして輪を広げたいね。

当然、話す内容は、今の西高の現状との比較。夏は、暑くて廊下側の窓は、全部外したり、逆に冬は、寒くて廊下側の列は日向の方に移ったりしたもんだが、今では、冬ストープが入ったらしい。それに、冬場ストーム弁当暖め器もな



いらしい。冬は、肉まんやボンカレーを持ってきて温めるのが流行ったもんだっけだね。当番が出遅れて、スチーム器が一番上しか空いていないと弁当が冷たいままで大失敗だったこともあったな。校門前の菓子屋もなくなったらしいし、和楽屋もコンビニ風に変わったようだ。よくチェリオを飲んで、尾西線も三十分間隔から十五分間隔になったぞうだ。

体育祭は、あいかわらず縦割り盛りが盛っているようだ。宇宙戦艦ヤマトやメーテル、鉄人28号、バカボンのパパなんてのもあつ

た。昔は、自由に創っていたけど、今では軍団の色にちなんだマスコットらしい規定があり、苦勞しているらしい。あいかわらず女子チアリーダーはオリジナル衣装を作るようだけと露出すると減点らしい。歴代チアリーダーの衣装変遷史なんてのも西高史に加えて欲しいね。自分等の入学と同時に定時制と体育祭が別れて、三年の時に文化祭も分離した。今は定時制がなくて、校舎を有効活用しているようだ。同じ世代でも働いて仕送りしながらの勤労生が同じ学び舎にいたことは、いい刺激だったかな。

そうそう、体育祭では一番盛り上がるスエーデンリレー(縦割り一チームでだんだん距離が延びるやつ)と騎馬戦がないらしい。騎馬戦は、俺らの代で乱闘になったからかな。上半身裸でやるけど毎年引つ掻き傷の犠牲者が出たな。いい意味で健康的にストレス発散しとったけどね。騎馬戦は、復活させてやりたいな。

学校群が廃止されて、補習授業も多いようだけど、西高のよさは、一浪覚悟で「田舎でノビノビ」だと思ふ。地元志向の強い土地柄だけど、若いうちにはもつと外に目を向けて欲しいな。来年も、新メンバーが増えることを楽しみにしています。

九回生 学年同窓会

平成十二年二月十一日、一宮駅近くのクラシックホテルにて九回生の学年同窓会が開かれた。参加人数は約一〇〇名。当時の正担任の先生も五人も参加していた。松井(旧姓)竹内)先生はなんと京都からの参加、本当にありがとうございました。七十年代のフォークソングをバ



ックに懐かしい思い出話に花が咲き、クラスごと、クラブごとの記念写真などで盛り上がり二十数年前に帰ったような笑い声があちこちで響き渡った。驚いたのは、とくに忘れたはずの校歌を意外とみんなが歌えたこと。あつというまに三時間が過ぎお開きとなりました。

そして、二次会。なんと幹事の予想を嬉しく裏切り殆どの人が参加し、会場はギッシリ。ギターの音も聞こえる中、話は尽きず歓談が続いた。十二時半に開始して、日も暮れてもまだ話し足りないみんなだった。五年後にまた同窓会を開くことを約束して散会。とても短い一日が終わった。幹事の皆さんの、本当に一生懸命な縁の下に感謝し、またこれから

もこのように楽しい同窓会が続くことを願っています。(鷺津秀樹)

